



基本のトラクタ 安心しっかりマニュアル

使い慣れた機械でも、思わぬところに危険が潜んでいます。
常に「安全チェック」を行い、事故のない農作業を目指しましょう。

作業前

保護カバー類は
ついていますか？



安全フレームは
立っていますか？（ロプス機の場合）



シートベルトは
つけていますか？

トラックでの
移動の時・・・

各レバーの位置は、OKですか？

1 下準備

トラックは、エンジンを止め、駐車ブレーキ



もちろん、平坦な場所で

アユミは、荷台の高さの4倍以上の長さで！十分な強度・幅・長さのものを

2 乗せてみよう！

ホイルトラクタ → 後進で
セミクローラ → 前進で

車速は低速
アユミの上では
変速しない



左右のブレーキ
は連結

クラッチは踏まない

積み込みが終わったら駐車ブレーキをかけ、
タイヤにロープ掛けをしてください。

走行中

路上走行時



左右のブレーキを
連結してください

走行切換を「2WD」または
「4WD」にしてください。

圃場の出入り

正面から



圃場の出入り、畦越え
時は直角の向きで行
いましょう。

ナナメ
からは
NG!

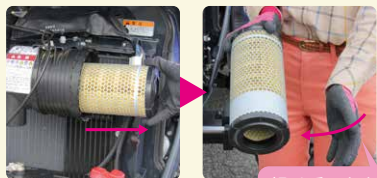
ナナメに進入すると、
転倒の恐れがあり
危険です。



基本のトラクタ作業前点検

エアクリーナ

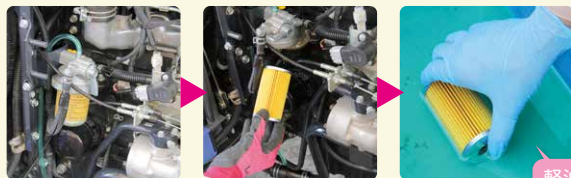
- ◎エレメントが詰まると、馬力不足や黒煙の発生、燃費が悪くなります。
- ◎乾いたホコリがついている場合はエレメントの内側から空気を吹き付けるか、手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
- ◎湿ったホコリで汚れている場合は、家庭用中性洗剤を水で薄めた液に約30分浸し、その後軽くすすいで自然に乾燥させてください。



軽く手でたたく

燃料フィルタ

- ◎フィルタ内に水・ゴミが沈殿していると、エンジン始動不良や吹けが悪くなりますので、内部洗浄します。燃料フィルタのレバーを「OFF」にした後、カップを外し、エレメント内部を軽油で洗浄してください。
- ◎組み付け後は、エア抜きをしてください。



軽油

バッテリー

バッテリー液は蒸発するので、少なくなっていたら補充します。インジケータで寿命を判断するものもあります。



タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観上の目安は下図の通りです。

空気圧ゲージで測定する場合は、取扱説明書に記載している適正な空気圧を参考にしてください。



空気が多い 適正 空気が不足

エンジンオイル

作業前はオイル量が適正か、汚れていないか確認します。オイル量が少なかったり、汚れているとエンジンの焼き付きにつながります。



上限と下限の間にオイルがあればOKです

オイルゲージのオイルを一度きれいにふき取り、ねじ込まずに給油口に差し込み、再度引き抜きます。

ラジエータ



ブラシ等でごみを落とします

詰まってしまうとエンジンのオーバーヒートにつながりますので、ネットに付いているごみを掃除しましょう。

リザーブタンク内の冷却水の水量を確認しましょう。



上限と下限の間であればOKです

ロータリの爪

爪が摩耗すると、耕うん能力が落ちてしまいます。爪が約半分まで摩耗が進んだら交換の目安となります。



取説へGO!

更に詳しくはこちらから





基本のトラクタ格納前手入れ

格納場所

長期格納する場合は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。また、周囲にはワラ等燃えやすいものが無いところで、シートをかけておくとも良いでしょう。

洗車の注意事項！



圧力水で洗車する際は、メーターパネルやハンドル回り、操作スイッチ回りなどの電気部品にはかけないでください。

各部の給油を行いましょう！

- ① 燃料タンクは満タンにしておきましょう。
→タンク内が結露して、水が混ざるのを防ぎます。
- ② 不凍液を入れておきましょう。
→外気温が0℃以下になる時は、エンジン凍結防止のため、必ずラジエータの冷却水に不凍液を混入してください。
- ③ エンジンオイルは、新しいオイルと交換しておくことをお勧めします。
→5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、各部にオイルを潤滑させましょう。

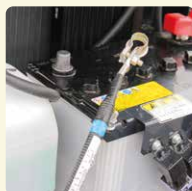


バッテリーは外しておきましょう！

そのままにしておくとバッテリーが放電してしまいます。

バッテリーは取り外して充電を行い、直接日光の当たらない乾燥した場所で保管しましょう。どうしても取り付けのまま保管しなければならないときは、必ずアース側（マイナス側）を外しておいてください。

※バッテリーを外すときはマイナス側を外してからプラス側を外します。装着時はプラス側を付けてからマイナス側を付けます。



作業機

作業機は取り外すか、または地面に降ろして保管してください。



取説へGO！

更に詳しくは
こちらから





基本のトラクタ 耕うんしっかりマニュアル

ロータリ作業編 その1

手順に沿って、ロータリ耕うんを始めてみよう！



エンジン
かける

1

ブレーキ連結解除



ブレーキの連結を解除。他にも、自動機能があるものは「入」に。

2

作業速に入れる



速度の目安は、1~2km/hです。変速レバーの位置は、車速表を確認してください。

3

PTOを入れる



PTOに入れ、変速レバーをまずは1速に。

6

ためしに耕うん！



作業機を下げて5mくらい、耕うんしてみましょう。

5

エンジン回転



エンジンを定格回転にします。

4

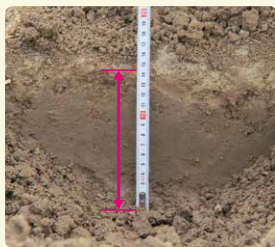
耕深調節



耕深自動を「入」にします。

7

耕うん深さを確認



一般的な深さは、13~15cmです。

8

しっかり耕うん できているか確認

凹凸がなければOK！



タイヤの跡がついているのはNG。NGの場合は、車速を遅くしたり耕うん深さを深くしてみよう。

耕うん START!!

取説へGO!

更に詳しくは
こちらから



Point

	ダイヤルで調整	ロータリの尾輪で調整
深くする時	「深」に入れる	尾輪を上げる
浅くする時	「浅」に入れる	尾輪を下げる

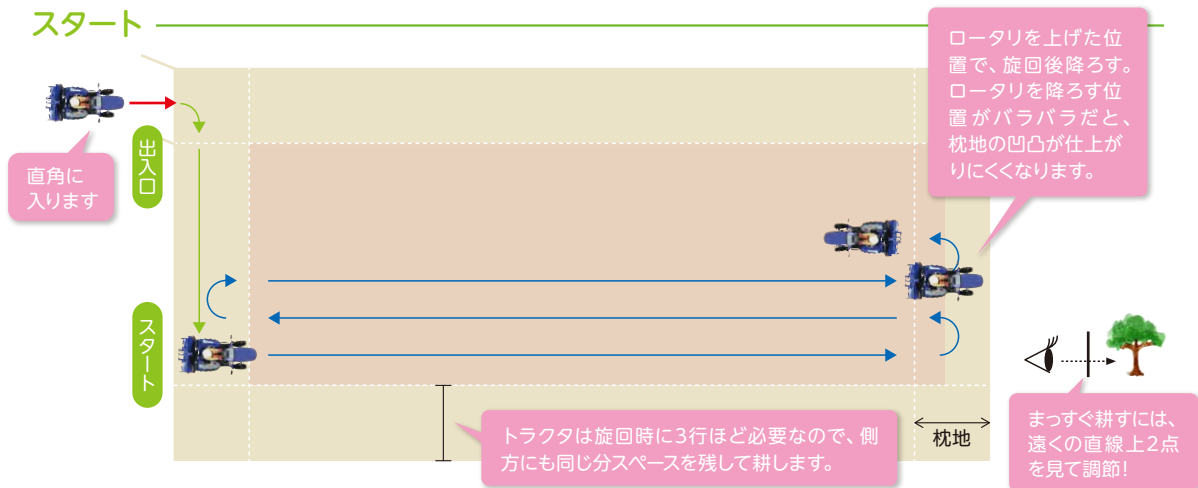


基本のトラクタ 耕うんしっかりマニュアル

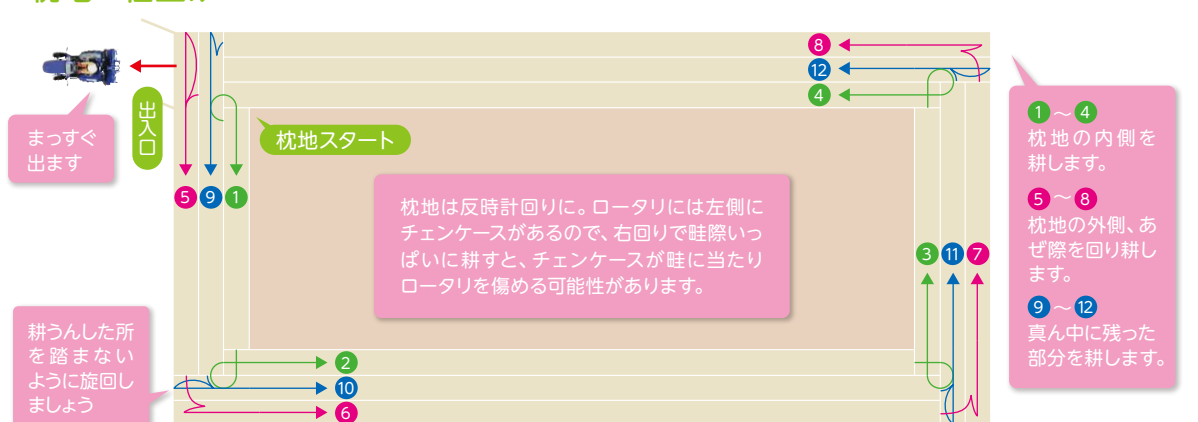
ロータリ作業編 その2

耕うんする時のルートをチェックしよう！

スタート



枕地・仕上げ



きれいに仕上げるコツ！キセキロータリの上手な使い方

回転ハンドルがついています。基本は耕うん位置ですが、調整するときれいに仕上がることがあります。

使い方は？



リヤカバー先端ができるだけ広く地面に接地するように回転ハンドルを回す。

※作業内容の範囲内で調整してください。

プレッシャースプリングって何に使うの？



耕うん時、リヤカバーをスプリングで押さえることで、碎土性・整地性が向上します。

※枕地や畦で有効です。水田の荒起こしでは土はけが悪くなり馬力ロスになることがあります。



使い方は？



下側のストッパーを上げてスプリングを効かせるだけ。